



視覚化音楽のための視聴覚芸術立体スクリーン

“プレスト 126/4”

音楽： ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン ピアノのためのバガテル 作品 126 の 4 プレ
スト (1824)、ベートーヴェン・ハウスにあるコンラッド・グラーフ (1824) 製作のハンマーフリ
ューゲル (フンメル家からの永久貸出) を使用したパウル・コーメン (2003) の演奏から

制作： ヨハンナ・ドムボア (企画、演出/脚色、芸術監督) ウリ・レヒナー (視覚効果監督) フ
ロリアン・ドムボア (アイデア、構想、企画監督) マルティン・ズトロップ (企画) ベートーヴェ
ン・ハウスのための制作で、ヴェルティゴ・システム有限会社、r m h -ニューメディア有限会社、
© フラウンホーファー研究所—メディアコミュニケーション、ザンクト・アウグスティン (2004)
の共同作業

上演時間： 4分

一般的ないいまわしで“取るに足りないこと”という意味のバガテルは、ベ
ートーヴェンの作曲においては当てはまりません。

“プレスト”という速度表示で作曲されたバガテル 短調作品 126 の 4 は、
その短さに驚かされ、作風は正にモダンであると評されました。

ベートーヴェンはこの曲を 1824 年初めに、3 番目のバガテル・チクルス中の
一曲として作曲しました。

彼自身、それについて“6つのバガテルは・・・私が作曲したピアノのため
だけのバガテルの中でも最高の曲です”と書いています。

ここで聴き頂くのは、この曲が作曲された年に製作されたベートーヴェ
ン・ハウスにあるハンマーフリューゲルで演奏されており、ベートーヴェン
の理想的な音を再現しています。

視覚化された“プレスト 126/4”は、デジタル技術で三次元化された画像
の中に、音楽の形、音の強弱、それに音響スペクトルを配置しています。

形で見ることのできる色・点・動作は音楽構成とデジタルデータの流れに連
動しており、言うならば音響の美的、物理的な側面を目で見ることができ
るようになっています。

それは抒情的で居心地の良い雰囲気をかもし出します。

視覚化音楽 “プレスト 126/4” の構成要素

1. 色素粒子

周波数分析によって曲の物理的に測定できる音響スペクトルを4つに分けます。

4つの音響範囲は動く顔料がつくる色の形 — 青の円、赤の正方形、緑の帯、黄色の三角形 — で表現されます。

色の粒子が撒き散らされる速度と量は、周波数の強さ（音の強弱）に比例します。

三次元の画像は、色の粒子が後方へ流れことによって生じます。

メディアプレイヤーで応用処理された周波数分析と視覚化した画面は、初めて3D一室で体験することができます。

2. インターアクション

入場者は音響絵画を操作することができます。

顔料はそれを操作するインターアクション機を使用して左右・上下に移動させることができます。

トラックボール—青の円； ジョイスティック—赤の正方形； ザイル—緑の帯； 三角形のボタン—黄色の三角形

入場者用のインターアクションでデータの流れを視覚化し、自分流の画像の流れを演出することができます。

3. 点

黒い点とその流れの方向は、曲の音楽的フォームを表現します。

それは2つの大きな異なった部分とその繰り返しから構成されます：A B A B

A マーチ、戦闘的な性格 上下運動

B 幻想的、まろやかな性格 左右運動

曲の特に激しいダイナミックなところ（スフォルツァティ）では、点が膨れ上がるように描き出されます。